	for your dream—	令和2年 7月8日
	<h1>進路通信</h1> <p>令和2年度 第3号</p>	<p>東京都立武蔵野北高等学校 進路指導部</p>

第1回学習時間調査の結果

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う休校措置により、例年とは異なる学習環境となりましたが、第1回学習状況調査の結果がまとまりましたので、結果を見ていきましょう。

第1回 学習状況調査(6月)結果

第1回学習状況調査の結果をお知らせします

各学年の平均学習時間

1年⇒3.45時間

2年⇒2.39時間

3年⇒4.80時間

1年6月の平均学習時間

37期	38期	39期	40期	41期	42期
1.53	1.50	1.48	1.64	1.81	3.45

2年6月の平均学習時間

37期	38期	39期	40期	41期
1.31	1.33	1.48	1.76	2.39

3年6月の平均学習時間

37期	38期	39期	40期
2.64	3.23	3.56	4.80

1年⇒3.45時間 ここ数年で最も学習時間が多い。もちろん、部活もなく、家庭学習している時間が長かったこともあり、例年と単純比較することはできません。しかし、40%近い生徒が4時間以上の学習をしているということは、今後の学習習慣を形作るうえで素晴らしいことだと思います。8割が宿題という結果は、課題に集中していることを示しますが、受験勉強を始めている人が2.9%いて、高い意識でムサキタに入学してきたことが読み取れます。半面1時間未満が3.3%いるということも事実。全員登校が始まり、部活動も再開しますが、1年生は2~3時間以上の学習を授業以外で習慣づけてほしいと思います。

1年生の塾率は、例年通っていない人が80%を超えていますが、今年は86.3%と過去最も高い割合を示しています。学校の学習をしっかりこなし、部活と両立していくこと、これが大切だと思います。

2年⇒2.39時間 (2月:1.46時間) 1年と同様、ここ数年で最も学習時間が多い。2~3時

間以上学習している生徒が全体の2/3を超えます。この調子で、ムサキタの中心学年として頑張っていってほしいと思います。1年と異なる点は、2年は宿題が55.2%と減少し、宿題中心から予習学習中心へ切り替えている生徒が出始めています。授業を復習とする学習は非常に効果的です。塾率は例年並みの22.6%であり、部活の中心学年として、学業との両立を図ってほしいと思います。学校再開後も、授業以外に3~4時間以上は勉強時間を確保できるようにしてきましょう。

3年⇒4.80時間 (2月:2.35時間) ここ数年で最も学習時間が多い。順調に受験モードに入っているようですね。難関大学に合格した卒業生のこの時期の平均学習時間は「5時間以上」です。質も大切ですが、受験はまず「量から」と言われます。しっかり学習時間をキープして

いきましょう。塾率は70%と、これも過去最高です。休校で塾に通い始めた人もいますが、自分なりの学習法を夏までにしっかり作っていきましょう。

予備校の使い方

そろそろ3年生が塾や予備校に通い始める時期であり、1, 2年生も塾に行くべきか悩んでいる人も出始める時期だと思います。受験を意識すると、どうしても塾や予備校に行かなくてはならないのかと思いがちですが、塾や予備校に行かないで第一志望に合格した先輩が多いのがムサキタの特徴であり、また、塾や予備校を使うなら、効果的な使い方があるので話しておこうと思います。

①塾はポイントで使う！

受験勉強は、最後は自分が学習をしなければ何の実にもなりません。学校の授業も塾も授業も予習復習が大切ですし、教えてもらうという意識ではなく、基本は自学自習。その上で、志望校に特化した対策などは、予備校や塾をポイントで利用するという意識を持つといいと思います。

②「予備校に行けばなんとかならない！」

予備校の先生の講義はわかりやすいと思います。わかりやすく教えているからです。それでわかったつもりになってはいませんか。自分からつかみとろうと努力して初めて本物の知識にはなります。

③学校の授業を大切にすること！

今年度の入試について

HPでもお伝えしましたが、文部科学省は、共通テストを、予定通り来年1月16,17日に実施することとするという発表をしました。出題範囲については、各大学に対して内容を減らすことなどを要請するというのですが、国公立協会は、出題範囲を減らさないほうという方針も示しています。

また、「新型コロナウイルス感染症による休校で学習が遅れている場合を考慮して、2週間後の同30,31日には全都道府県に会場を設けて追試験を実施受験できるようにする。」ともありましたが、センター試験の例でみる限りでは、追試験は得点しにくいという傾向もありますし、その分、個別試験にかける時間が2週間程度少なくなるために、追試験を受験するデメリットは大きいと思います。

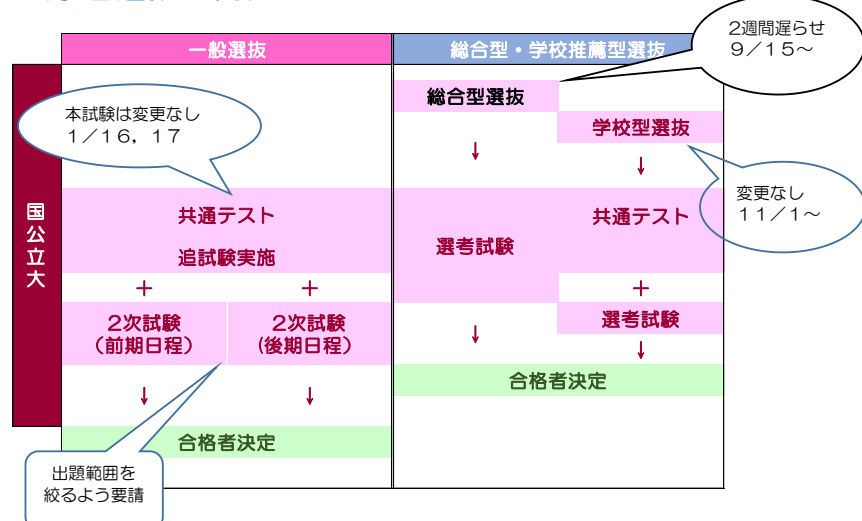
「総合型選抜（AO入試から改称）の出願開始は2週間繰り下げ、9月15日以降とする。11月1日の

学校推薦型選抜（推薦入試から改称）の出願開始や、来年2月1日以降の一般選抜の日程は変更しない。感染拡大の状況によっては、改めて日程を検討」ともあり、国公立大学を第一志望としている人は、総合型選抜もチャンスの一つと受け止め、学習計画を立てていくとよいと思います。私立の推薦入試枠の増加により一般入試の定員が減少するため、一般入試は激化が予想されています。今年は確かに大変な年かもしれません。しかし、安易な志

2020年度実施の大学入試の流れ

- 9月15日 総合型選抜（旧AO入試）出願開始
（合格発表は11月1日以降）
- 9月28日～10月8日 大学入学共通テスト出願
- 11月1日 学校推薦型選抜（旧推薦入試）出願開始
（合格発表は12月1日以降）
- 12月中旬まで 共通テストの受験票などを大学入試センターから送付
- 1月16、17日 共通テスト第1日程
- 1月30、31日 共通テスト第2日程
（第1日程追試も兼ねる）
- 2月上中旬 主な私立大の一般選抜
- 2月8日以降 大学への共通テストの成績提供
- 2月13、14日 共通テスト第2日程の特例追試
- 2月25日以降 国公立大2次試験（個別試験）の前期日程
- 3月8日以降 公立大2次試験の中期日程
- 3月12日以降 国公立大2次試験の後期日程

入学者選抜の流れ(受験の仕方)



望校変更はせず、第一志望を貫いて学習を継続しましょう。

今後の進路スケジュール

本格的な登校が始まり、今まで中止にしていた進路行事を、形を模索しながら開始したいと考えています。

- ・河合塾による 3年夏の学習ガイダンス
- ・推薦入試説明会 (3年)
- ・共通テスト説明会 (3年)
- ・ベネッセによる国公立説大学説明会 (3年)
- ・進路の手引き説明会 (1年)
- ・1, 2, 3年ともに「進路ノート」が完成しましたので、配布を開始します。

閑話休題

答えが一つに定まらない問いに対して解を見つける力が必要だと、昨今よく言われる。生きていく上で正しい答えが決まっている問題の方がめずらしいわけであるから、それはその通りだ。でも、これは本当に難しい。

このコロナ禍の中で考えたのは、ベターな行動をとるための判断材料となる情報はどうやって集めればいいのかという問題だ。専門家と言われる人たちの言うことも様々であるし、自分が納得してその指針に従えるような情報はいったいどこにあるのだろうか？

これと似たようなことが10年ほど前にあった。3.11、東日本大震災の時のことだ。福島第一原発がメルトダウンして放射性物質が拡散するという事態になった時も、情報をどうやって得ればいいのか随分悩んだ。

結局その時私は、マス・メディアよりも即時性のあるTwitterで、ある物理学者が発信する情報を元に考えることにした。日本のトップの大学の先生で、好きな作家のメールマガジンに論評を寄せていた先生だ。自分には放射能に関する知識は全然ないし、どの専門家の言うことが信頼できるかもよくわからないから、自分が信頼できると思った人が信用している人を信じてみようと思ったのだ。

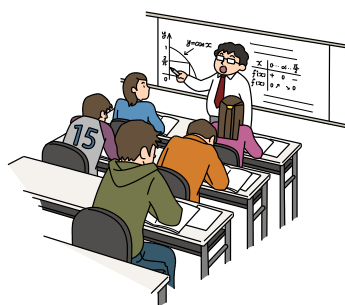
残念ながら数年後、その先生の当時の論文に誤りがみつかる。線量を過小評価するための捏造疑惑だとも言われている。自分の判断の足場はそのような脆いものだったのだ。

でも、ではどうすればよかったのだろうか。

このような経験もあったから、今回の新型コロナの問題では誰の言うことを信じればよいか判断することもできず、ただもやもやして終わってしまった。というよりは、もやもやが継続中だ。クルーズ船に乗り込んだ感染症専門の学者さんのつぶやきや、詳細なデータを示して会見するクオモ知事の記事などを読みながら、結局どの情報を信じてどのように行動するのがいいのか考えたけれど、答えは出せないままだ。

全員が登校できるようになって、日常が戻りつつあるように見えるけれど、先のことはわからない。みなさんなら、この問題どのように答えを出しますか？

田村 智恵



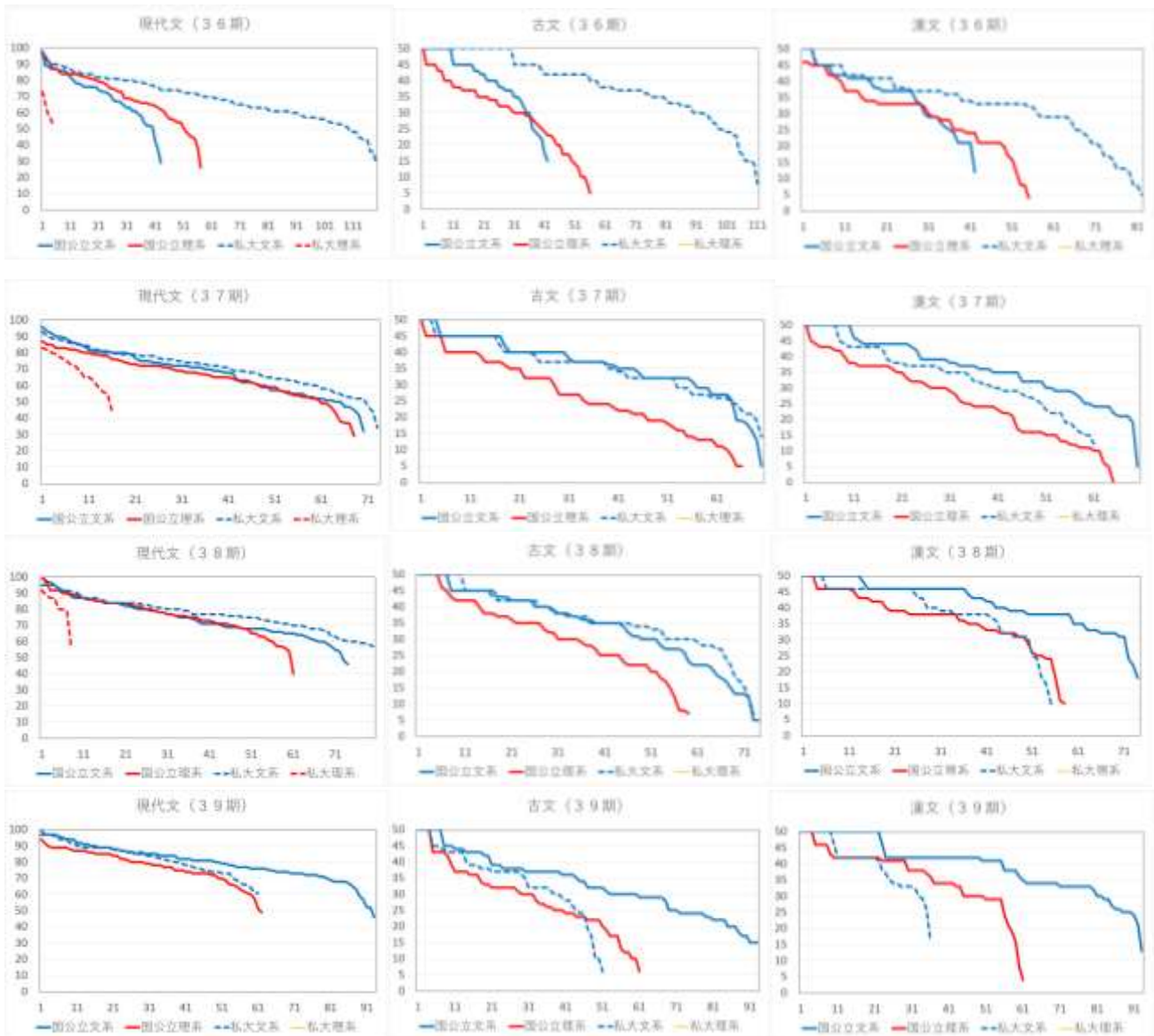
データを読もう 文・理の差はどこでつく？

4月号で過去のセンター試験の平均点の分析を国公立／私立、文系／理系で分けて概観しました。今月は、詳細なデータで文理の差がつく科目を確認して、今後の学習に活かしてください。

以下のグラフは横軸が人数（順位）、縦軸に各科目のセンター試験の点数をとったものを、国公立文系、国公立理系、私大文系、私大理系に分けて図示したものです。

36期生までは生徒の半数が私大文系志望だったので、37～39期生とはいろいろ異なります。36期生の国語と英語のグラフからは、受験科目を3科目に絞ることにより1科目に十分な勉強時間がとれるので、国公立志望者より高得点をあげていることがわかります。

大学受験は「団体戦」ですので、大半が3科目に絞り、週3日（自由選択の日の）午後は帰宅する（多くは予備校に通う）雰囲気の中では、7科目やるのは不利と考えるほうがノーマルだったかもしれません。

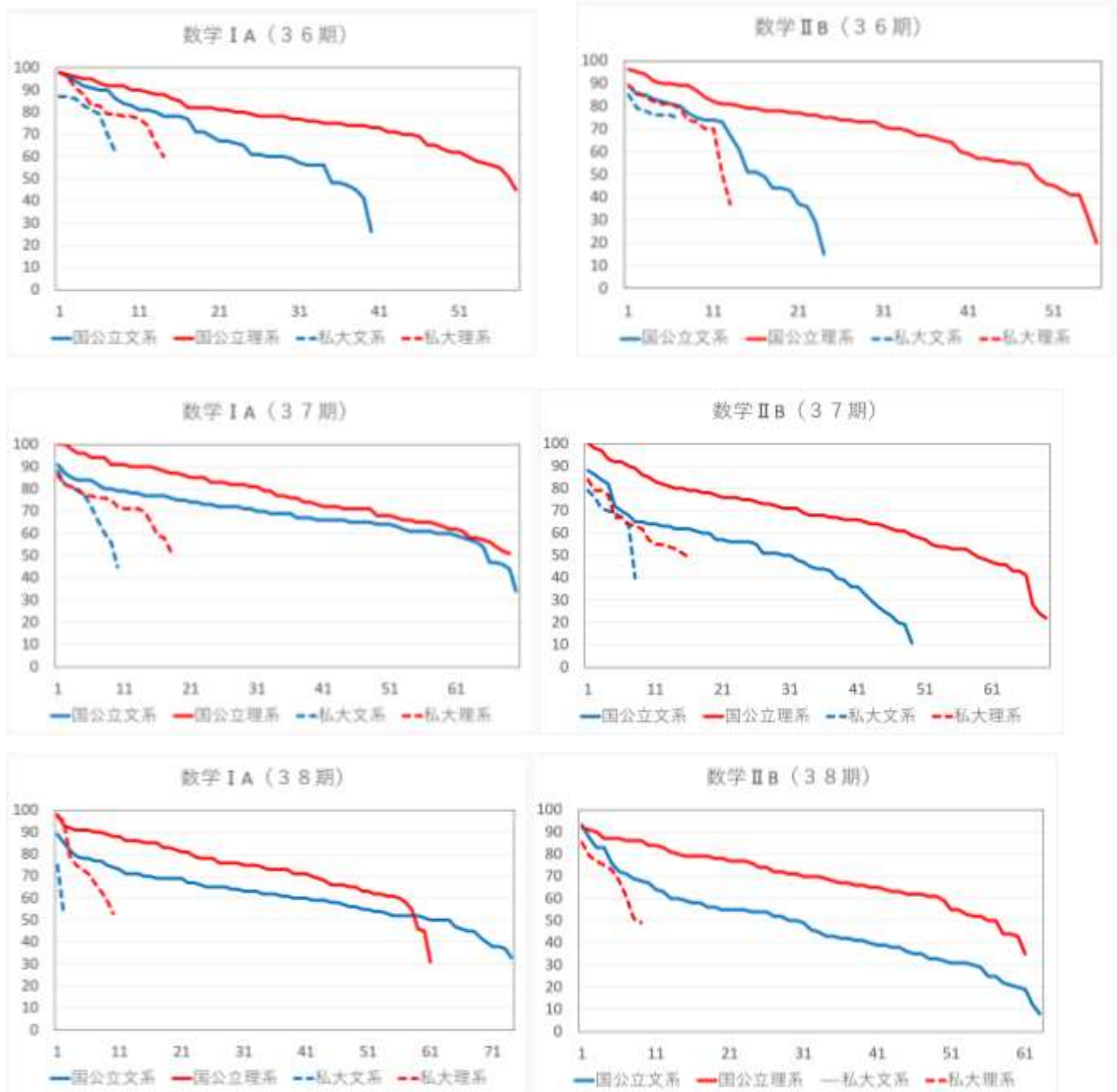


37期生以降は国公立文系、国公立理系、私大文系が3割ずつのようになり、本校の「団体戦」の様相が変化してきました。生徒の半数以上が7科目に取り組むようになってきた上に、国語・英語において私大文系の圧倒的優位さがなくなって国公立文系、国公立理系、私大文系が三つ巴で競い合ういい雰囲気になっています。

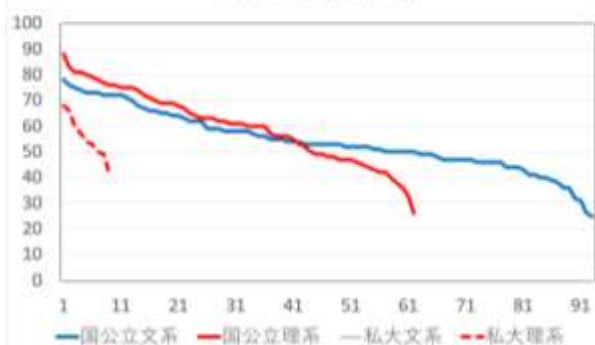
国語科の科目については現代文では志望タイプごとの差がほとんどないことがわかります。一方、古文・漢文では理系が文系に大きく離されています。文系は必修選択古典4単位を学習しているのが当たり前ですが、理系の人には古典が一つのポイントだと意識してほしいものです。通常、この順位－得点曲線は、同

じ授業や、同じ教材で学習しているので「多くの人が集まる得点帯」が存在し、グラフが横に寝ます。グラフが横に寝ているほど、効果的な「団体戦」が展開できているといえます。ところが、37期の古文の国公立理系は斜めに一貫して下降しており、「団体戦」が感じられませんでした。そこで、国語科は理系古典を自由選択枠に開講し、38、39期では古文・漢文ともグラフが横に寝て「団体戦」に持ち込めています。

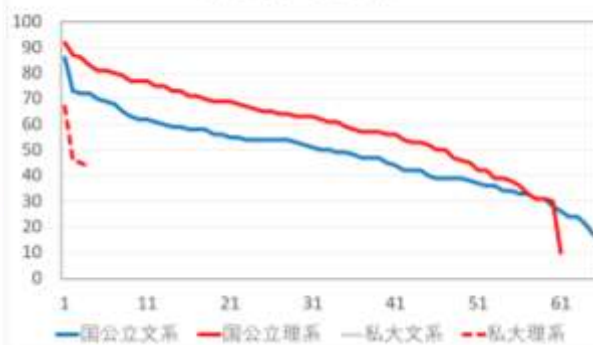
数学では、37期以降は、数学ⅠAでは文理の差があまりないのに、数学ⅡBで大差がついていることがわかります。文系は数ⅡBがポイントになります。国公立文系受験者は数ⅡBを選択できないので、独学になりますが、毎年、間に合わない人が多くいます。今年はYouTubeに多くの数ⅡBの動画があがっていますので、授業を履修できない人も学習することが可能です。鬼門の数ⅡBに十分な時間を取って取り組みましょう。



数学 I A (39期)

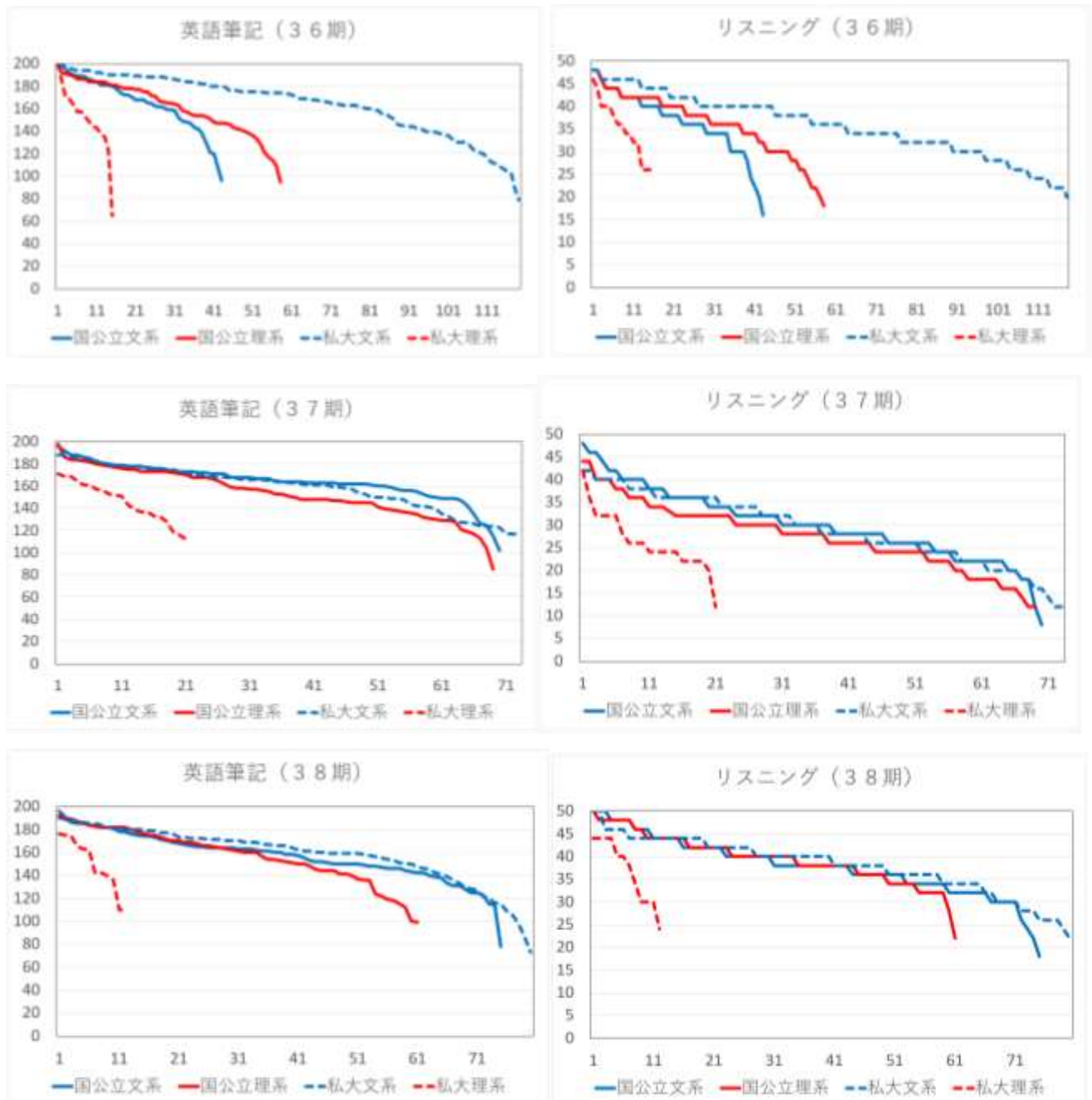


数学 II B (39期)

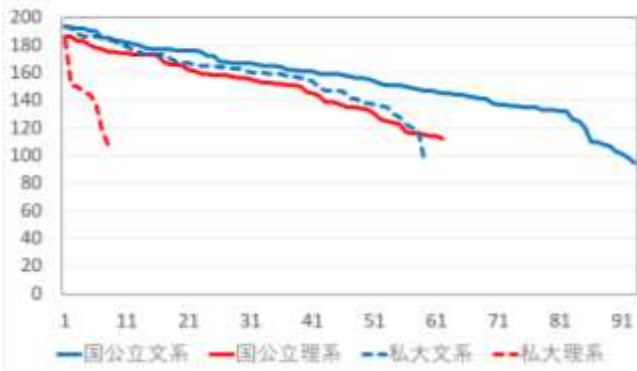


最後に英語科ですが、37期以降は筆記もリスニングも国公立文系、国公立理系、私大文系が重なり合っ
て、グラフの高いレベルで横になっており、いい「団体戦」を展開できているように読み取れます。

また、すべての図上で、もともと少数の私大理系志望者は、毎年苦戦している状況がうかがえます。人
数が少ないので、「団体戦」のペアを時に国公立文系、時に国公立理系と組みながら、切磋琢磨していきま
しょう。



英語筆記（39期）



リスニング（39期）

